

## 第61回 卒業式



## 第61回卒業生の皆様へ



国立病院機構  
呉医療センター附属  
呉看護学校 学校長  
繁田 正信

呉医療センター附属呉看護学校第61回生の皆様、御卒業おめでとうございます。この良き日を迎えられたご家族の方々の喜びもひと塩と推察致します。3年前の春、将来、看護師になるという期待に胸を膨らませて本校に入学され、あっという間にこの日を迎えられた事と思います。

思えば皆さんが入学された令和5年4月は、まだ新型コロナウイルス感染症による制限された生活が続いておりました。しかし5月から新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に引き下げられ、少しずつ通常の学校生活に戻って行き、令和6年からは、ほぼコロナ前の状態に戻りました。まさに皆さんは新型コロナの栄枯盛衰と共に本校での学園生活を過ごされた訳です。新型コロナ感染症は無くなっていませんし、重症化する方もおられます。病院と言う環境では、今後も十分な管理が求められます。ただ、人間は人と人との関係なくして生きられません。友人や家族との、たわいの無い会話や食事によって、どれ程心が安らぐか、皆さんが一番分かると思います。普通の学校生活を存分に楽しめましたか？

これから皆さんは、看護師となり臨床の場に立つ事になります。様々な社会や環境で生活していた患者さんが、病気を癒すために一定期間通院あるいは入院をされ、その間を濃密に関わる仕事です。趣味や性格、置かれた立場、あるいは人種さえ異なる人と、医療と言う、一般人ではあまり馴染みのない領域で相対する事になります。我々医療界の人間にとっての常識は、一般人には理解して頂けない事がたくさんあるのです。そのため、患者さんの多くは非常に緊張した状態で病院に来られます。この緊張をほぐす最

高の方法は、笑顔と優しい声掛けです。その時、どの様な表情で、どの様な声のトーンで看護師が患者さんに話しかけたら安心してもらえますか？にっこり笑って、どうされましたか？どの様な症状でこちらに来られましたか？と優しく聞かれると、一気に心が和みませんか？心が和めば、自分の分からない事を素直に聞くことができませんか？患者さんから必要な情報を引き出すのも同じ事です。笑顔と優しい問いかけ、これがあれば、良好な関係を築く事が出来ます。

最後になりましたが、本校卒業生全員、当校で学んだ事を礎に、自信と誇りを持って、素晴らしい看護師になって下さい。また卒業後、何かあれば、いつでも本校に足を運んでください。ここはあなたたちの母校です。暖かく迎え入れてくれます。

# 1年生



63回生  
青木 沙樹

看護学校での日々は、高校生の時とは異なり、初めて触れる医療や看護の専門的な知識や技術は看護師となることを実感するものばかりです。戴帽式を機に、自分が目指す看護師像がより明確になったと実感しています。

1年次は終了試験や看護の技術チェックが多くあり、学校行事と並行しながら多重課題の状態を乗り越える力が求められ、鍛えられて強くなったと思います。そんな中で、諦めることなく1年を終えることができたのは先輩方の存在です。先輩方が臨地実習へいきいきと向かっている姿を目にしながら、近い将来の自分たちを想像し励まされました。

4月からは2年生になりますが、常に目標を持ち、先輩方のように夢に向かって走り続けることができるよう努力します。

# 2年生



62回生  
堀田 海鈴

学生2年目も無事終わり、残り1年となりました。

2年生では課題や実習に加え、学校行事の中心となり、学校祭の運営やスポーツ交流大会での応援合戦などを行いました。スポーツ交流大会では呉看の団結力を発揮し優勝することもできました。忙しい日々の中でも仲間と支え合いながら、多くのことに取り組んだことは私にとって良い経験になりました。

1月から始まった領域別実習はまだまだ続き、これからも悩むことが多くあると思いますが、この2年間で作り上げたチームワークでお互いを高め合い成長していきたいです。

# 令和7年度 卒業生



61回生  
佐伯 智美

看護学校での3年間は大変なことも多くありましたが、多くの学びや経験、思い出ができた時間でした。

臨地実習では少人数のクラスとなり、先生方からすぐに指導を受けられ、話しやすい関係の中で学ぶことができました。私にとってクラスメイトは大きな支えであり、国家試験当日も普段通り笑いあっている姿を見て緊張がほぐれ、乗り越えることができました。また、先生方のサポートや応援も力になりました。在校生・新入生の皆さんも、辛いときは患者さんから頂いた言葉や仲間、先生の存在を思い出し乗り越えてもらえたらと思います。

今後は呉看護学校で学んだことを活かし、理想の看護師を目指して努力していきます。



第63回 入学式



母校から後輩が来てくれました♡



オープンスクール



親睦会

イントロクイズ、ソフトバレー、ボール渡しなど、全学年で親睦を深めました♪

春



学校祭

夏



戴帽式

秋



受け継いだ灯と誓いの詞に込めた思いを大切に♡

冬



特別講演



クリスマス会



第61回 卒業式



卒業おめでとう❁

# 卒業生より

3A病棟

平岡 生成 59回生



私は、当校を卒業し呉医療センターの3A病棟で勤務しています。3A病棟は、救命救急センターとして重篤および複数の診療科領域にわたる重症な患者さんの救命医療、看護を実践しています。救命救急センターの他に、当病棟では救急外来や透析室、心臓カテーテル検査室の業務も担っています。私は、主に救命救急センターで勤務しています。

医師をはじめ多職種のスタッフと協働しながら、重症患者に対する、呼吸、循環管理を中心とした集中治療を行っています。入院される患者さんは疾患が複雑に関係していることも多く、小児から高齢者まで年齢を問いません。患者さんの状態は、数分で変化することもあります。最も患者さんの近くにいる存在として、少しの変化に気付けるよう全身観察を入念に行っています。実際に看護実践を通して、患者さんの日々の目標を立案し、クリアしていくために必要な介入を行っています。その中でも、安全に実施できるかの判断、クリティカルシンキングを行います。

実践した看護が、状態の改善に繋がった時や小さな変化に気づき、早期からアプローチできた時はとてもやりがいを感じます。救命救急センターでは、先輩方と日々状態のアセスメントを行いながら、指導していただいています。先輩方の看護観を吸収しながら、自身の看護観を明確にしていきたいです。

これから看護師として働いていく中で不安なことが沢山あると思います。先輩方や同期のみんなと支えて合いながら、一緒に頑張っていきたいと思います。

9B病棟

下釜 海梨 60回生



私は当校を卒業後、呉医療センターに就職し、9B病棟で勤務しています。

9B病棟は血液内科病棟になっており、主に悪性リンパ腫や白血病に対して多くの種類の抗がん剤治療や移植を行っています。そのため、何度も入退院を繰り返している患者さんが多くおられ全人的な関わりが大切となります。患者さんの小さな変化に気付けるよう日々のコミュニケーションを大切にし、多職種と連携しながらチーム全体で安全安楽な看護を提供しています。

配属された当初は、分からない事が沢山あり不安でしたが、その都度先輩方に相談し、ご助言を頂きながら一つ一つの行動に責任を持ちながら看護を行う事が出来ています。多忙で目先の事で手一杯になる事もありますが、患者さんの一人一人に合わせた看護を提供できるよう日々精進しながら努めています。

学生の皆さんは日々の授業や実習等で大変な事が沢山あると思いますが、同じ夢を持った仲間たち、先生方や先輩方などと共に支え合いながら頑張ってください。皆さんと一緒に看護ができる日を楽しみにしています。

## 編集後記

卒業生、在校生の皆さま、お元気ですか？

今年度は、普通校となり「初めての年」の学生が巣立っていきました。学生数が少なくなり寂しいですが、年間行事はすべて通常に戻り、学業と並行して企画・準備・運営にみんなで奮闘し、相変わらず母校はにぎやかです。また、原稿からは卒業生の奮闘ぶりがよく伝わってきました。在校生の皆さまも一緒に頑張っていきたいと思います！

当校でご尽力いただきました田代副学校長、徳臣学校事務長が3月でご退任となり、小山教員は他校へ異動となりました。また、中原教務助手が退職されました。心より感謝申し上げますとともに、新天地での益々のご活躍を祈念いたします。

卒業生の皆さまにご報告があります。当校の情報を発信するため、Instagramを始めました！！是非、ご覧ください。そして、看護の夢を持つ人に出会ったら「みなさんの母校」を紹介いただければと思います。

このたび編集を担当するにあたり、多くの方に寄稿依頼をしましたが、届いた原稿は、先輩と後輩双方がお互いを想う言葉が飛び交っており、とても心が温まるものでした。呉看護学校らしさを感じ、とても嬉しく思います。

病院関係者様方、本年度中はご支援を賜りありがとうございました。今後とも変わらぬご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。

編集委員 花子 紀子 小杉 恭子 小山 仁一 天野 志保 奥田 真由美 戒能 正美



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター附属呉看護学校

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1 TEL.(0823)22-5599/FAX.(0823)22-5646

URL <http://www.kure-nh.go.jp> E-mail [kuregaku@sc.kure-nh.go.jp](mailto:kuregaku@sc.kure-nh.go.jp)

発行責任者 学校長 繁田 正信